

『医方類聚』所収の『急救仙方』について

上田 善信

日本鍼灸研究会

緒言

『医方類聚』266巻(1445年撰成, 1465~1477年刊)は朝鮮・世宗が金礼蒙・柳誠源・全循義等に命じて編纂した医学全書である。本書は総論及び91の病門からなり, 各病門ごとに後漢から明初までの数多くの古医書が年代順に引用されている。

『急救仙方』(『救急仙方』とも称す)は宋代に成立した著者未詳の方書で, 現伝のものに『四庫全書』所収の6巻本(『永楽大典』からの輯佚本。以下, 四庫本と略称)と『道藏』所収の11巻本(以下, 道藏本と略称)の2種がある。四庫本は巻1が背瘡治法, 巻2が疔瘡治法, 巻3が眼科, 巻4が痔證, 巻5が雜瘡, 巻6が雜證から成る。道藏本は巻1~巻5が産科及び婦人科, 巻6~巻7が仙授理傷統断秘方, 巻8が疔瘡, 巻9が痔瘡, 巻10~巻11が上清紫庭追癆仙方論で, 構成が異なるだけではなく, 四庫本と同内容である巻8と巻9も記載順が異なり, 他の医書からの引用も見られて, 四庫本とは大きく異なっている。また『永楽大典・医薬集』(人民衛生出版社, 1986年)所収の『急救仙方』条文は2条にとどまる。一方, 前記した『医方類聚』には, 『急救仙方』からの多数の引用が見られる。よって『急救仙方』の全体像を知るためには, 前記した諸本と『医方類聚』引用部分との比較が必要となる。

『医方類聚』所収の『急救仙方』と四庫本との比較

『医方類聚』所収の『急救仙方』は41門に169条文が見られる。このうち, 引用条文の長短はあるものの, 解毒門(17条), 諸瘡門(13条), 諸風門(12条), 婦人門(10条)の4門に52条が所出する。ただ道藏本と一致する条文は見られない。四庫本との比較の結果は次の通りである。

四庫本と同文或いは類文の関係にある条文は61条文で, 各巻の所出状況は, 巻1(5条), 巻3(4条), 巻4(6条), 巻5(24条), 巻6(22条)である。四庫本との文字の異同は少ないが, 以下に相違が大きいものを挙げる。①巻167・虫傷門・治纏蛇丹「竈心土乾研, 清油調塗」: 四庫本にはこの9字が無く, 以下に「一方」として「糯米粉和塩同嚼唾患処」の10字がある。②巻168・獸傷門・虎傷: 四庫本は「虎傷」を「治虎傷方」に作り, 以下に「又用沙糖水調塗, 仍服沙糖水一兩碗」の15字がある。③巻192・諸瘡門・治座痲「切断黃瓜擦痲子上安, 或以棗葉煎湯浴之」: 四庫本は「痲」を「痲」に作る, 「切断」から「或以」までの11字は無く, 「又方」を「治浸淫瘡」に作る。④巻194・膏藥門・湯火傷「黃蜀葵花葉搗敷」: 四庫本ではこの7字は「漆瘡」の条文とし, 「湯火傷」の条文は「水磨炭末塗」に作る。

結語

『急救仙方』は『医方類聚』凡例中に挙げられている引用書である。凡例所載の引用書目について, 岡西為人は「引書目に載せられたものは直接引用された書で, 孫引きの形になった書名は挙げられていないのであろう」と指摘している。『医方類聚』所収本と四庫本の条文には同文, 類文が多いことから, 同系統の版本を典拠としていると見られる。また『医方類聚』の引用文には, 四庫本に見られない佚文が大量に収載されていることから, 『急救仙方』研究における貴重な資料といえる。